

(参考資料)

1. 加藤清正公の功績

加藤清正公は、尾張の国出身（名古屋市で生まれ津島市で3歳から11歳まで育つ）で、城主となった熊本では、今でも親しみをもって「せいしょこさん」と呼ばれています。

清正公は「土木の神様」ともいわれ、治水・利水、干拓、架橋などに類まれな力を発揮し、熊本の国づくりの礎を築きました。

例えば、熊本城下を流れる井上 松次郎（和泉流）重要無形文化財総合認定保持者、何度も大洪水に襲われていました。清正公は上流から河口まで川の状態をつぶさに見てまわり、蛇行した川の付け替えやショートカットなどのさまざまな工事に取りかかり、洪水被害の軽減を図りました。

また、堰（せき）を築き、井手を掘るなど、あらゆる工夫をして田畑を豊かにし、大津街道などの道路整備や、横島（現在の玉名市）の干拓事業にも力を注ぎ、現代までに至る熊本の都市の基盤を構築しました。

また、「築城の名手」といわれ、熊本城や名古屋城をはじめ、数々の名城の築城に携わったことで知られています。

これら清正公の偉業は、今も人々の生活の中に息づき、恩恵を与え続けています。



「名古屋城」の清正



「熊本城」の清正

2. 清正公・熊本と能狂言

戦国武将は、室町期に大成した能楽をこよなく愛し、特に豊臣秀吉公が能・狂言に心酔していたことから、清正公も前田利家・福島正則・黒田官兵衛諸公と共に戦の節目や諸行事の度に演じていました。江戸期には、家康が幕府の式学としたことから、大名家にはお抱え能楽師が置かれ、武家・町人の精神鍛錬・共通語教育・時には諸藩の情報収集（諜報）の役割も果たしました。肥後熊本藩にも能役者が召し抱えられ、その菩提寺が「役者寺」と呼ばれるなど、能楽愛好者が多い地域です。

3. 尾張の狂言

尾張名古屋は、東京や京都と共に、狂言が盛んな地域です。

現在、名古屋で活躍しているのは、明治維新の混乱後も弟子たちが結束して流儀を守った「狂言共同社」と江戸時代に尾張と肥後の両藩に抱えられ、400年途絶えることなく続いている「野村又三郎家」です。

尾張の能狂言は、江戸時代から武家のみならず町人層にも愛され、子どもの習い事や、今でいうサークル活動として、生活の中に浸透していました。

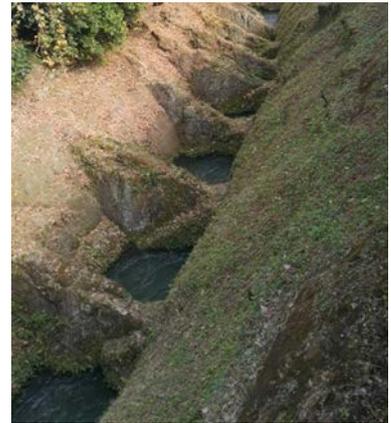
今でも、能楽堂で演じられだけでなく、「やっとかめ文化祭」で野外の辻狂言が演じられるなど、さまざまな形で楽しまれています。

4. 清正公の代表的な土木遺産

<鼻ぐり井手：熊本県菊陽町馬場楠：白川>

立野から流れてくる火山灰が水路に堆積することなく白川からの水を流す仕掛け。

岩壁の下部に水流穴があり渦巻いた漕の水が井手底の穴より、勢いよく次の漕へ噴流し土砂を巻き上げ、次々と下流へ押し流しています。



<渡鹿堰：熊本県熊本市渡鹿 白川>

川から農業用水を取水するための白川で一番大きな堰（せき）です。この堰は斜めに突き出しているのが特徴です。

築造当時（西暦1600年頃）は熊本平野1,083haに水を行きわたらせ、農地を潤しました。



△画像出典：国土交通省 熊本河川国道事務所

以上